

Ⅰ 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
 - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 a ハ b ニ c イ d ロ [3点×4]

問二 後世の知見からすれば、生物を二界に分類するリンネの説が間違っていたのと同様に、その後提唱されたホイタッカーの五界説も間違っていたこと。(68字)
[8点]

- A 後世の知見からすれば、(2点)
- B 生物を二界に分類するリンネの説が間違っていたのと同様に、(3点)
- C その後に提唱されたホイタッカーの五界説も間違っていたこと。(3点)

※B・Cは「間違っていた」「否定された」「覆された」などの語句がなかったばあいはそれぞれ2点。

問三 X ニ Y ロ [4点×2]

問四 未知領域の [5点]

問五 ニ [4点]

問六 批判を真摯に受け止め、間違いが分かった場合は修正し、取り下げるときものは取り下げるといった、修正による発展を繰り返すことができるという点。(69字) 8点

- A 批判を真摯に受け止め、(2点)

※「情報をオープンにし」とした場合、1点を認める。

- B 間違いが分かった場合は修正し、(2点)
- C 取り下げるべきものは取り下げるといった、(2点)
- D 修正による発展を繰り返すことができるという点。(2点)

問七 ハ [5点]

※ 制限字数の半分以上書かなかった場合は無得点とする。

※ 「から。」や「こと。」のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1点減点。

※ 句点を付けていないのも1点減点。

※ 誤字は1点減。

大問二 問一

基準 配点.. 2点×4

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

- 1 羅列
- 2 緊密
- 3 好対照
- 4 代物

大問二 問二

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A

「芸術」とは、もともと「美しい技術」を意味するものであるから、

B

「美しくない芸術」という表現は

C

「芸術」を言い表していることにはならないということ。(72字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 「芸術」とは、もともと「美しい技術」を意味するものであるから…3点

- ・「芸術」の本来的な意味を説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 「美しくない芸術」という表現は…3点

- ・「形容矛盾」とされる表現を指摘していないものは、要素B加点数なし

■要素C 「芸術」を言い表していることにはならないということ…3点

大問二 問三

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

二

大問二 問四

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／並立で「〜と〜」とするのが基本
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 6点

■模範解答

A

美しいものを産出する技術と

B

実用品を作る有用な技術。 (25字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…二十五字以内 十二字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 美しいものを産出する技術…3点

- ・「分けた」もののうちの一方である「美しいものを産出する技術」を指摘していないものは、要素A加点数なし

■要素B 実用品を作る有用な技術…3点

- ・「分けた」もののうちの一方である「実用品を作る技術」を指摘していないものは、要素B加点数なし

大問二 問五

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

□

大問二 問六

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A

芸術とは神が創造した美を絶対的な理想とした概念であり、

B

人間はその神の創造に倣って美を実現しようとするため、

C

芸術が美しいのは当たり前であるということ。(74字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 芸術とは神が創造した美を絶対的な理想とした概念であり…3点

- ・「理」を説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 人間はその神の創造に倣って美を実現しようとするため…3点

- ・要素AとBのつなぎとして、「人間が神に倣った」ということを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 芸術が美しいのは当たり前であるということ…3点

- ・「当然」を言い換えていないものは、要素C加点数なし

大問二 問七

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

水

★2021年度 第4回 全国有名国公立大模試

三

(古文『太平記』)

採点基準

※50点

※誤字・脱字・読めない字・意味が通じない表現などは、程度に応じて、配点範囲内で減点してください。
※モニター採点例は、得点順に並べてあります。

問一 二重傍線部①～④の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ一つ選び、記号で答えよ。

【各2点・計8点】

※採点方法 ①～④とも正解以外は×。

- | | | | |
|---|------|---|------|
| ① | 〔正解〕 | ハ | 【2点】 |
| ② | 〔正解〕 | ヘ | 【2点】 |
| ③ | 〔正解〕 | ト | 【2点】 |
| ④ | 〔正解〕 | イ | 【2点】 |

〔傍線部〕

A1

さしたる

B1

嫌疑の人にては

C3

ましまさねども、

〔解答例〕

A1

たいした

B1

嫌疑がある人では

C3

いらっしやらないけれども、

※採点方法 各要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】さしたる ↓ たいした

※「さほどの・それほどの」等でもよい。「たいして・さほど・それほど・あまり」等、連用修飾語と なっていてもよしとする。

※「そのように」等、指示語として扱っている場合は×。

B【1点】嫌疑の人にては ↓ 嫌疑がある人では

※「疑いがある人」は「疑いがかかっている人・疑われている人」等でもよい。

※表現が正確でない「疑いの人」「疑われている訳」等は×。

※「は」の有無は不問。

※「幕府転覆の」等、「疑い」の内容説明の有無は不問。

C【3点】ましまさねども、 ↓ いらっしやらないけれども、

※打消の意味（くない）がない場合は×。

※「いらっしやる」+打消（くない）+逆接（けれども・が）があれば【3点】。

※打消（くない）+逆接（けれども・が）があるが、「いらっしやる」がない場合は【2点】。

※「いらっしやる」+打消（くない）があるが、逆接（けれども・が）がない場合は【2点】。

※打消（くない）があるが、「いらっしやる」も逆接（けれども・が）もない場合は【1点】。

※推量（くだらう）の有無は不問。

問二 ⑥ 傍線部を現代語訳せよ。

【5点】

〔傍線部〕

A2

白状にはあらず、

B3

一首の歌をぞ書かれたる。

〔解答例〕

A2

白状を書くのではなくて、

B3

一首の和歌をお書きになった。

※採点方法 各要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】白状にはあらず、 ↓ 白状を書くのではなくて、

※「(罪を) 白状するのではなくて・白状ではなくて・罪を告白するのではなく」等でもよい。
※語尾が「なく・ないが」等になっていてもよしとする。

B【3点】一首の歌をぞ書かれたる。 ↓ 一首の和歌をお書きになった。

※「歌(和歌)を書く」の意がない場合は×。

※「歌(和歌)を書く」の意+「一首」+尊敬(お〜になる・〜なさる・〜れる)+過去(〜た)で
【3点】。

「一首」、尊敬、過去、のうち一つ欠けるごとにマイナス1点。

問二 ㉔ 傍線部を現代語訳せよ。

【5点】

〔傍線部〕

A2 当座なりける人々も、

B1 もろともに

C2 袖を濡らしければ、

〔解答例〕

A2 その場にいた人々も、

B1 一緒に

C2 涙を流して袖を塗らしたので、

※採点方法 各要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】当座なりける人々も、 ↓ その場にいた人々も

※「そこにいた人々も」等でもよい。

※過去（ける）が訳されていない「その場にいる人々も・そこにいる人々も」等は【1点】。

※「その場に・そこに」の意がない「座っている人々も」等は×。

B【1点】もろともに ↓ 一緒に

※「共に」でもよい。

※「皆」等は×。

C【2点】袖を濡らしければ、 ↓ 涙を流して袖を塗らしたので、

※「涙を流す・泣く」＋過去（くた）＋「ので・から・ため」があれば【2点】。

※「涙を流す・泣く」の意がない場合は×。

※「袖を塗らした」の有無は不問。

※過去、「ので・から・ため」、のうち一つ欠けるごとにマイナス1点。

※尊敬の意等、よけいな意味が付いている場合は、一つにつきマイナス1点。

問三 傍線部Aとあるが、どういうことか。そのようにした理由もわかるように、五〇字以内で説明せよ。
【8点】

※採点方法 要素単独採点。ただし、AとBには赤字の条件あり。

※字数 五〇字以内。

〔傍線部〕

見物も面を掩ひける。

〔正解〕

A3 為明を拷問にかけるための準備を見た人々が、

B2 そのあまりの恐ろしさのために、

C3 目を背けたということ。(四七字)

〔ポイント〕

A【3点】 為明を拷問にかけるための準備を見た人々が、

※**BもCも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。**

※「拷問の準備を見た人が」の意があればよい。

※「準備」がなく、「拷問を見た人が」の意がある場合は**【2点】**。

※「拷問の準備を見た人が」も「拷問を見た人が」もなく、「拷問が」の意がある場合は**【1点】**。

B【2点】 そのあまりの恐ろしさのために、

※「恐ろしいと観じた・残酷に思った」等の意があればよしとする。

C【3点】 目を背けたということ。

※「目を背けた・見られなかった」に相当する意味があればよい。

問四 Xの和歌の説明として適当でないものを一つ選び、記号で答えよ。

【5点】

※採点方法 正解以外はX。

【正解】イ 【評5点】

問五(一) 傍線部Bを六字以内で現代語訳せよ。

【3点】

※採点方法 要素単独採点。 ※字数 六字以内。

〔傍線部〕 やさしけれ

〔解答例〕 優雅である。(六字)

〔ポイント〕

※「優美だ・風流だ・風雅だ・雅だ・雅だ・情趣を解する・趣がある・上品だ」等でもよい。

※「素晴らしい・感心だ・殊勝だ・立派だ」等は【計2点】。

※「偉い・すごい」は×。

問五(2) 傍線部Bはどのようなことに対する評価か。説明せよ。

【8点】

※採点方法 各要素単独採点。ただし、AとBには赤字の条件あり。

※字数 指定なし。

〔傍線部〕 やさしけれ

〔解答例〕

A「範貞がB「為明のC「和歌に感銘を受け、拷問をやめて為明を許したこと。

〔ポイント〕

A【1点】 範貞が

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※Cの「拷問をやめた・為明を許した」の主語が「範貞」であるとわかればよい。

※「北条範貞が・常葉駿河守範貞が・駿河守範貞が・六波羅探題の長官である範貞が」等でもよい。

※「範貞」がなく、「常葉駿河守が・駿河守が・六波羅探題の長官が」がある場合は【1点】。

B【1点】 為明の

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※Cの「和歌(歌)」の詠み手が「為明」であるとわかればよい。

※「二条為明の・二条為明卿の」でもよい。

C【6点】 和歌に感銘を受け、拷問をやめて為明を許したこと。

※「和歌(歌)」に感銘を受け(感動し・心動かされ)、拷問をやめたこと」の意があれば【6点】。

この意味があれば「為明の・為明を許した」の意の有無は不問。

※「拷問をやめた」の意がなく、「和歌(歌)」に感銘を受け(感動し)、為明を許したこと」の意がある場合は【5点】。

ある場合は【5点】。

※「拷問をやめた」も「為明」もなく、「和歌(歌)」に感銘を受け(感動し)、罪を許したこと」の意がある場合は【4点】。

意がある場合は【4点】。

※いずれの場合も、「感銘を受け(感動し・心動かされ)」がなく、「和歌を見て・歌によって」等と

なっている場合は、それぞれの点からマイナス1点。

※いずれの場合も、「和歌・歌」が「詩」となっている場合はマイナス1点。

問六 空欄 甲・乙 に入る語の組合せとして適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

【3点】

※採点方法 正解以外は×。

〔空欄部〕 甲 が 乙 の序に書きたり……

〔正解〕 ニ (甲 紀貫之・乙 古今和歌集)

四 (漢文) 採点基準 (合計 ≪ 50 点)

問一 各2点 ≪ 8点

解答

a ≪ すくなく b ≪ たまたま c ≪ あいともに d ≪ すでに

採点基準

- ・送り仮名のないもの1点 例 a 「すくな」「すく」 c 「あいとも」
- ・仮名遣いの誤り1点 例 d 「すで」「すで」
- ・終止形にしているもの1点 例 a 「すくなし」「すくなくない」、c 「あひとも」も1点。

問二 各3点 ≪ 6点

解答

A ≪ ハ

B ≪ ホ

問三

8点

(難関大は6点)

解答

無^シ
ニ^{トシテ} 夕^{ルハ} 不^レ 飲^マ

採点基準 返り点…4点

送り仮名…4点

返り点 「無」の下の「ニ」…2点

不「の下の」一レ…2点

送り仮名 間違い一箇所につき…1点減。

「ルハ」の「ハ」はなくとも可。

問四 各4点＝6点

(難関大は各3点)

解答例

書き下し文＝故人に命じて 之を 書せしめ

a 1点

b 1点

c 2点

採点基準

a 「命じ」も許容。

「故き人」も許容。

b 「これを」とひらがなにしたものも許容。

c 「書せしむ」「書かしめ」「書かしむ」も許容。

「書かせしめ」は×。

*漢字をひらがなで書いている場合、

2箇所までは許容、3カ所は2点。

すべてがひらがなの場合は1点。

*誤りには、直しを入れてください。

d 1点

e 1点

f 2点

解答例

現代語訳＝旧友に頼んで この詩を 書き写してもらい

採点基準

d 「昔なじみ」「親友」「友人」は許容。

e 「これ」「之」のまま、0点。

f 「書かせる」「書かせた」も許容。

問五 6点

解答例

a 2点

b 1点

c 2点

どうして 人里に住んでいながら 俗事に煩わされることがなく

d 1点

いられるのか。

採点基準

a 原因・理由を表す疑問文になっている…許容。
「どうして」だけでも1点加点。

b 「人里」は「人の住むところ」「街・町・村」なども可。
「住んで」は「居ながら」「暮らしながら」など。
「ながら」は「しかも」など。

c 「世間のこと」「世俗的なもの」「人に」「喧騒から」
など許容。

d 可能表現（不可能）になっているもの加点。

問六

【解答通り】

3点

解答

二

問七

(一) 4点

a 2点

b 2点

解答例

(一) 〓 世俗的な 煩わしさ (8字)

採点基準

a 「世俗」は「生活」「俗世」「人間関係」「日常」「世間」
など許容。

b 「煩わしさ」は「めんどう」

【解答通り】

(二) 各2点 〓 4点

(三) 3点

(二) (i) 〓 ホ (ii) 〓 口

(三) 〓 八

以上